

教師ノート

週課	第二年 第二課 第三週
単元	詩篇と預言者
テーマ	信頼と守り
タイトル	ライオンの穴のダニエル
テキスト	ダニエル書6章
参照箇所	
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	ダニエル6:23
AG 日曜学校教案参照箇所	幼1巻1題1課、小下1巻4題9課、小上3巻5題7課
□導入	<p>紀元前6世紀イスラエルの民がバビロニア軍に捕らえられ、バビロンに強制移住させられていたところのお話です。ダニエルは、バビロンに連れて行かれたユダヤ人のひとりでしたが、知恵があり、謙遜で忠実な人だったので、バビロンの王に信頼され、出世しました。特に誰にも分からなかった夢の解き明かしをしたので、王に喜ばれました。</p>
□ポイント1 ダニエルは、神さまにも仕事にも忠実な人でした(1-10)	<p>バビロンの国ではダリヨスが新しい王になりました。まず、ダリヨス王は、国民が反乱を起こさないように、また税金をちゃんと納めるように、国内のそれぞれの地域を治める太守(地方総督)120人を任命しました。そしてその120人が不正を行なわないように管理統制する大臣を3人置きました。ダニエルのうちには神のすぐれた霊が宿っていたので、ダニエルは他の2人の大臣より格段に賢く立派でした。ダリヨス王は、ダニエルを総理大臣に任命しようとするほど、特別に愛し信頼していました。他の大臣や太守たちは、そのことを非常にねたみました。そこで彼らは、何とかしてダニエルを陥れようとたくらみましたが、ダニエルは忠実で、彼に何の怠慢も欠点も見つけれませんでした。そこで、太守や大臣たちは、ダニエルの信仰深さを利用して、彼を陥れるしかないと考えました。彼らは王に、1か月間ダリヨス王だけが神としてあがめられなければならないという法令を制定するよう願いました。</p> <p>☞ダニエルは忠実で賢かったため、他の大臣や太守は、賄賂をもらうなどの不正ができなかったのかもしれませんが、また、ダニエルはユダヤ人(バビロンの人からみれば外国人)でした。それらのことが、彼らのねたみと怒りを増大させたという推察もできます。</p> <p>☞ダニエルが普段から神と人に対して忠実であったことを、強調して語りましょう。ダニエルは、そばで働いているみんなから徹底的に探られたのに、王に告げ口する口実さえ見つけられませんでした。これは、「すぐれた神の霊」の助けによるとしか考えられません。主を恐れるものに神はあわれみ深いのです。ダニエルのような人は、人にも愛され・信頼され、幸いな人生を送ることができます。</p>
□ポイント2 ダニエルは、陰謀にはめられ、ライオンの穴に入れられました(11-19)	<p>大臣や太守たちは、ダニエルが1日に3回、エルサレムの方に向かってお祈りを欠かさないことを知っていました。信仰はダニエルが一番大切にしていることだからこそ、その習慣は変えられないだろうと考え、それを弱点として逆手にとる作戦です。ダニエルは、その法律が発令されたことを知りました(もしかしたら、それが太守たちの陰謀だったことにも、気付いた? かもしれません)。しかし、彼は、迷ったり、おびえたりすることなく、「いつものように、日に三度、ひざまずき、彼の神の前に祈り、感謝」しました。策略をくわだてた人たちは、「しめた! 」と思ったことでしょう。彼らは早速、それを王に報告しました。王は</p>

法律をつくったことを非常に後悔し、ダニエルを救おうと、一日中奔走しました。しかしもう法律を取り消すことはできません。ダニエルはライオンの穴に投げ込まれてしまいました。王がホンモノの信仰を持っていたかどうかは分かりませんが、ダニエルに救われてほしいとの一心で「神があなたをお救いになるように。」と言いました。出入り口は封印されました。この封印は、ダニエルが逃げられないようにするためであり、誰かがダニエルを助けないようにするためです。しかし封印があるのにダニエルが助かったとしたら・・・ダニエルを救ったのは神だ！と証明することになります。王は待っている間、食べることも、休むこともしませんでした。

☞ 日に3度おいのりする習慣について（Ⅰ列8:48、Ⅱ歴6:38参照）。祈りは人に見せるためにするものではありません（マタイ6:5-6）。しかし、このときダニエルが隠れて祈ったとしたら、それは神よりも王を恐れていることの表れとなってしまいます（使徒4:18-20）。ダニエルはただ神に従ったのです（王に反逆したわけではありません）。ダニエルは、生ける神がダニエルの状況をご存知であるはずだという確信に満ちていたのです（事実、神はこの時すでに、ダニエルを救い出す方法さえ段取り済みであったはずです！）。この時、お願いの祈りではなく、感謝の祈りをしているダニエルの信仰を見習いたいものです。

☞ 王さまなら、自分の発令した法律を変えることができるのではないかと疑問をもつ子どもがいるかもしれません。しかし、王が自分で発令した法を、自分ですぐに取り消したり、簡単に例外をつくったりすると、国が混乱してしまいます。一度制定した法は、絶対に変更できないという仕組みは、社会の秩序を保つためには有効ともいえるのです。

□ポイント3 ダニエルが神さまを信頼していたので、神さまはダニエルを守られました（20-28）

王は夜が明けると急いでダニエルに呼びかけました。するとダニエルは、元気に・しかも落ち着いた・礼儀正しい口調で、自分が無事であることを報告しました。ダニエルが守られたのは、彼が神に信頼していたから（23節）です。王はダニエルを告発した者たちを、罰として、その妻子とともに、ライオンの穴に入れました。するとたちまち骨まで噛み砕かれてしまいました。さらに王は、「私は命令する。私の支配する国においてはどこでも、ダニエルの神の前に震え、おののけ。」と全国に書き送りました。

□結論 ダニエルは、ライオンの穴に入れられても、神さまを信頼していたので、神さまに守られました 暗唱聖句を読み上げます

□適用（聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう）

例1)ダニエルのように、神さまを信頼する人を、神さまは必ず守ってくださると信じよう。神は生きておられます—それはただ死んでいるか生きているかというだけでなく—活動している、パワフルで、全能で、わたしたちの人生にかかわりを持ち、善と悪を見分け、祝福を与えてくださるという意味です。どんな時も、神さまが守ってくださると信頼しよう。普通に考えたら、ダニエルが助かる確率は0%でした。それでもダニエルは神さまを信頼したのです。（確かに、助けられない時もあります。でも、どうせ助かるはずがない・・・とあきらめるのではなく、ダニエルのような体験をしたい！と大胆に祈りましょう。1回でもミラクルを体験して、それを信じ続けることが大切です。）

例2)ダニエルのように、だれに何と言われても、神さまを礼拝することを第一にしよう。あなたは、教会の外でも神さまを第1にできていますか？お友だちにバカにされそうになったら、信仰より自分が楽な方を選んでしまいませんか？（食事の前にお祈りをしない、他に楽しいことがあったら礼拝を休む、等）。

例3)ダニエルのように、忠実で、おともだちから信頼される人になろう。先生、牧師先生、両親に従うことを通して神さまに従おう。それは、神さまが与えた権威だからです。神さまに忠実ということは、人にも忠実ということ。あなたが、神さまに仕えるように、両親や先生に仕えていれば、あなたはみんなから信頼され、祝福されます（ダニエルが総理大臣になったように）。あなたの両親や先生は、イエスさまを信じていないかもしれません。だからといって、その人に従わなくて良いということにはなりません。ダニエルは異教の国の王にも忠実でした。ライオンの穴に入れられた後でさえも、王に礼儀正しく・穏やかに接しました。クリスチャンでない人を裁くのではなく、誠実に接しましょう。